

十勝川中流部市民協働会議 川づくり報告会

～これまでの川づくりと今後の川づくりについて～

平成31年3月9日

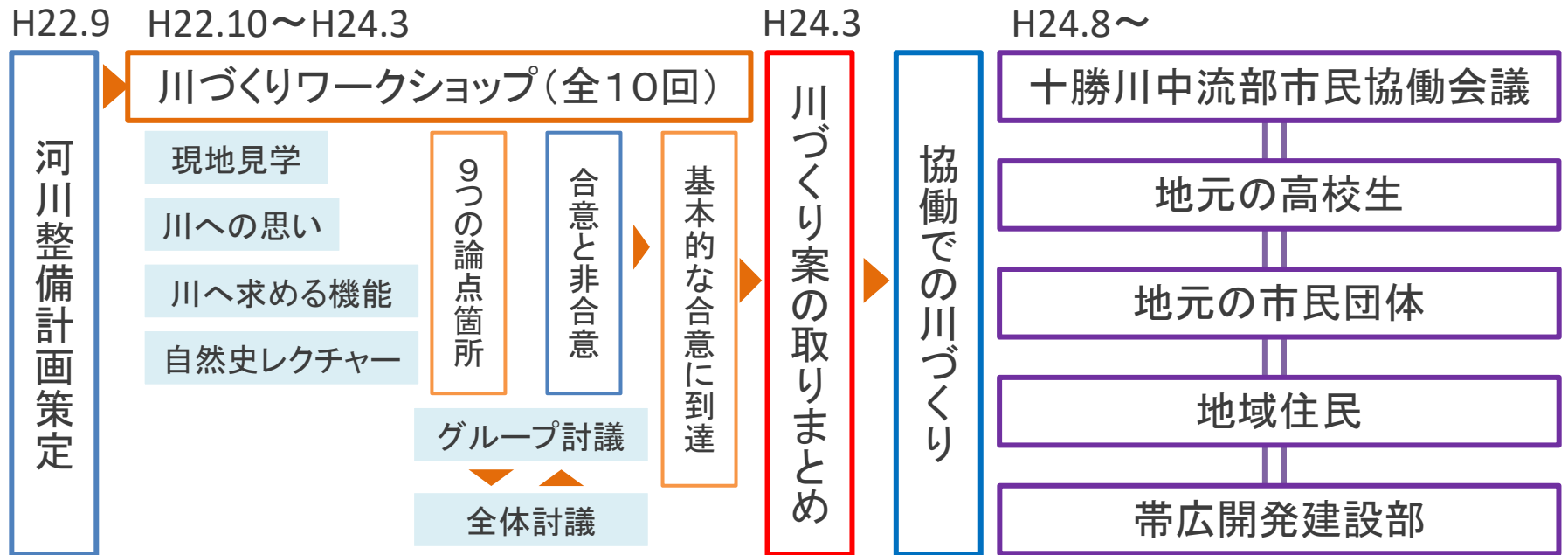
帯広開発建設部 帯広河川事務所

- 十勝川中流部の川づくり(案)について -

帯広開発建設部では、十勝川中流部の治水安全度向上のため、河道の掘削を行うにあたり、より良い川づくりに向けてその具体案を検討することを目的に「十勝川中流部川づくりワークショップ」を開催しました。

ワークショップは10回開催され、河道整備の方向性を示す「十勝川中流部川づくり案」が取りまとめられました。

平成24年度からは「十勝川中流部市民協働会議」が立ち上げられ、地域住民、市民団体、行政が協働で、川づくり案に沿った川づくりを進めています。



十勝川中流部川づくりワークショップ 川づくり(案)と整備状況



【音更川合流点より上流】

合意事項

- 左岸側の樹林を伐採し草原環境へ
- 連続性確保のため河岸の樹木幅10m程度を保全
- 中洲や河道内の河原は現状を維持し、掘削は行わない

KP 57.4
左岸河原樹林を伐採
河岸側の樹木は保全(10m程度)

【音更川合流点下流①】

合意事項

- 左岸側(音更側)の樹林を伐採し、草原環境へ(河岸側10m程度の樹木及びケシウヤナギ林を含む大型樹林は保全)
- 右岸側(帯広側)の河岸を平水水位で掘削(幅30~40m程度)

ケシウヤナギを含む大型樹林を保全(幅30m程度)

KP 55.8
樹木を伐採
帯広市側を平水水位で掘削(幅30~40m程度)

【相生中島上流左岸】

合意事項

- 左岸側(音更側)の河岸を、樹木の連続性に配慮しつつ平水水位で掘削。
- 樹林の分断される箇所では、連続性を確保するため樹林再生の試行的な取り組みを実施する。

【施工直後】→【施工後約10年のイメージ】

H25

野生動物の移動に影響し樹林の連続性を確保

土手を削り、樹木を保全し、掘削後の土質を安定

KP 53.2
掘削の再点検

【相生中島より下流】

合意事項

- 中洲については、樹林化している部分(中洲の半分程度)を平水水位で掘削し、河原環境の形成により再樹林化を防止する。
- 右岸側にシウドウツバメの集団営巣地があるため、左岸側を平水水位で掘削する。

KP 50.2
左岸と中洲を平水水位で掘削

河原環境化

KP 50.4
左岸を平水水位で掘削

H24

【音更川合流点より下流②】

合意事項

- 中洲を、左岸側半分程度を残して平水水位で掘削。枝流は保全する。
- 併せて、河原環境の形成を図るとともに再樹林化を抑制する。

H25-27

枝流を保全

KP 54.4
右岸を平水水位で掘削
中洲を平水水位で掘削

【相生中島上流右岸】

合意事項

- 右岸の河岸側の樹林を幅50mで保全し、その背後地の樹林を伐採。
- 再樹林化を防止するために、掘削して湿地環境を形成する。

H25-26

KP 53.6
河岸側を50m幅で保全
樹木伐採
樹林の連続性を確保

掘削
音更側を掘削

湿地環境とし再樹林化を防止

【メン川合流点下流】

合意事項

- メン川と十勝川の合流部は、サケ稚魚の速やかな降下を考慮し、平水水位で掘削するとともに、メン川沿いの樹木は保全する。
- 平均年最大水位程度で右岸高水敷を掘削するとともに、再樹林化を防止するため、地域との調整を図った上で、凹凸を付けて多様な湿地を含む環境をつくる
- 施工中の十勝川温泉側からの景観を考慮し、中洲の樹林の一部を10m程度の幅で残しながら施工する。

KP 46.2
川原樹林は全て保全(堤防は約10m幅で保全)

平均年最大水位程度で掘削し、草原環境を創出

KP 47.8
草原環境とする

平均年最大水位
平水水位

【途別川合流点下流】

合意事項

- 河床部を掘削する。
- 右岸側の高水敷については、現況の水域が極力残されるよう、水域周辺の樹木の内、川側を全て保全、堤防側を幅10mで保全し、その他の部分を平均年最大水位程度で掘削し、草原環境を創出する。

KP 47.2
河床掘削

KP 47.2
河床掘削

【十勝川温泉より下流】

合意事項

- 樹林を伐採後、掘削して浅場環境を形成する。
- 十勝エコロジーパーク下流の樹林の一部を疎林化する。

※具体的な実施については、今後、十勝エコロジーパークや北海道と調整

KP 47.2
河原樹林伐採

平均年最大水位

浅場環境の形成
河床及び右岸高水敷掘削

伐開区域凡例		掘削部凡例	
密一疎	伐開	河床掘削	平水水位掘削
		高水敷掘削	

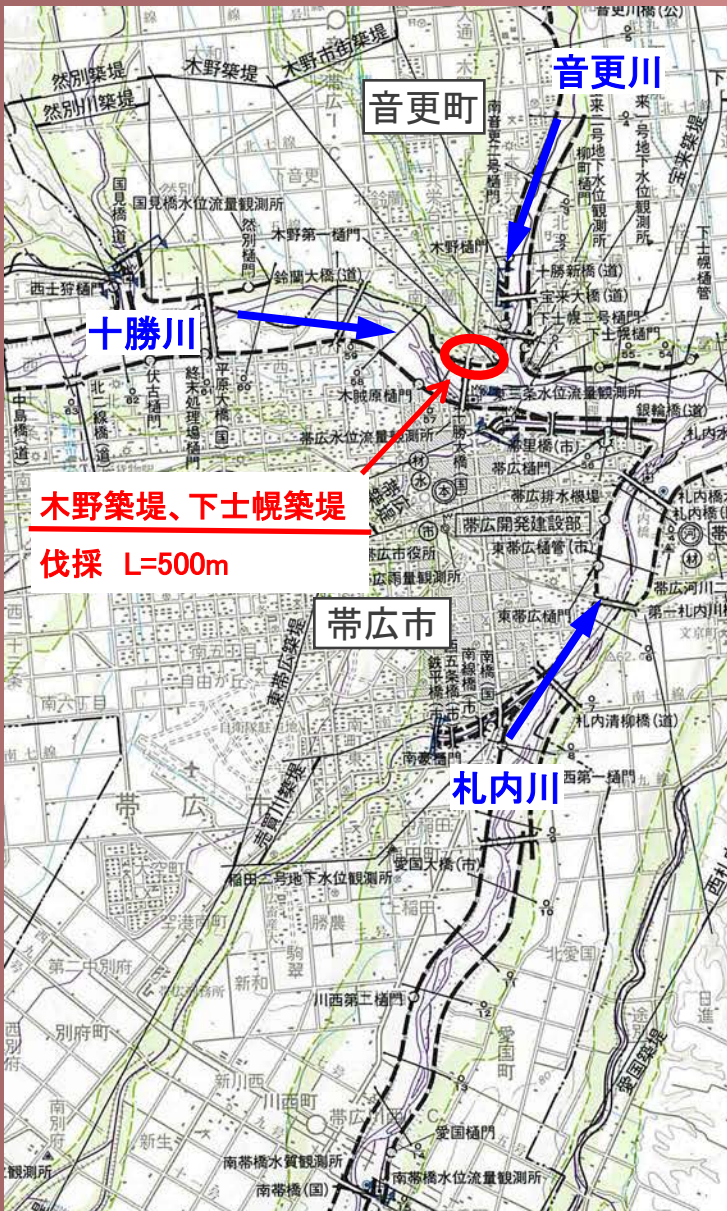
0 250 500 1,000 1,500 2,000

4N

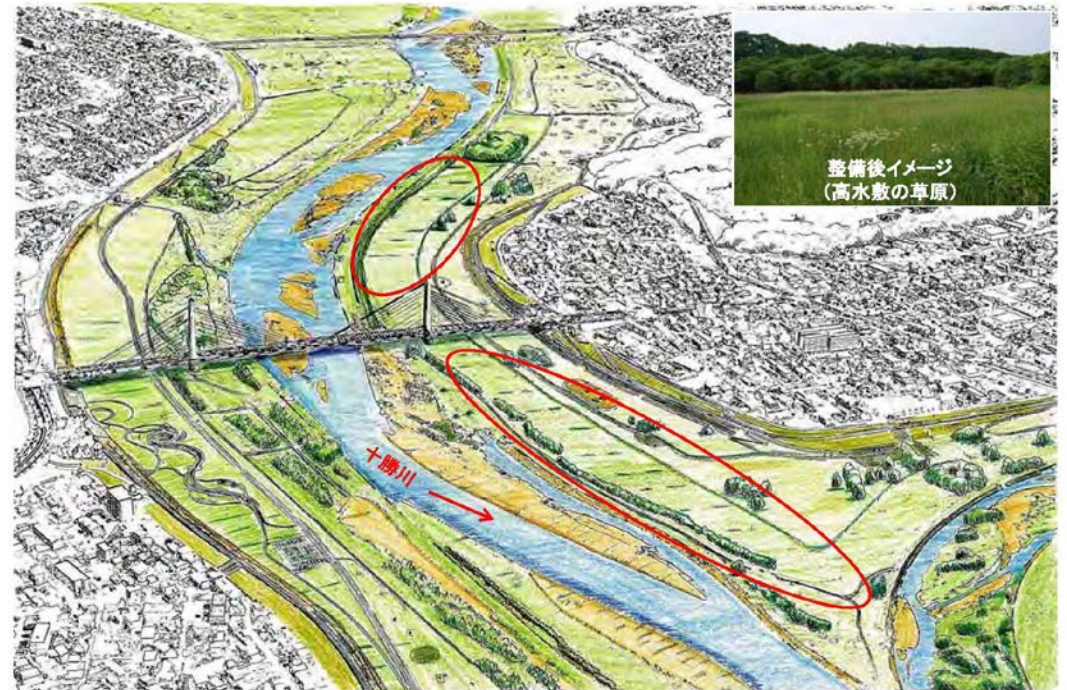
【H30実施】公募伐採

工期：H30年11月～H31年4月

◆目的
流下能力を確保するため 伐採を行う。
伐採は公募により実施。



— 音更川合流点上流イメージ図：左岸側の川側10m程度を残して伐採 —



【H30実施】公募伐採 実施状況

作成20181114

H30 公募伐採範囲の存置区画及び保全木位置図



【H30実施】公募伐採 実施状況

伐採の様子



十勝川



存置区画
伐採範囲

十勝川中流部川づくりワークショップ 川づくり(案)と整備状況



【音更川合流点より上流】

合意事項

- 左岸側の樹林を伐採し草原環境へ
- 連続性確保のため河岸の樹木幅10m程度を保全
- 中洲や河道内の河原は現状を維持し、掘削は行わない

河原側の樹木は保全(10m程度)

左岸河原林を伐採

河原側の樹木は保全(10m程度)

掘削部

音更川

【音更川合流点下流①】

合意事項

- 左岸側(音更側)の樹林を伐採し、草原環境へ(河岸側10m程度の樹木及びケショウヤナギ林を含む大型樹林は保全)
- 右岸側(帯広側)の河岸を平水水位で掘削(幅30~40m程度)

ケショウヤナギを含む大型樹林を保全(幅30m程度)

樹木を伐採

帯広市側を平水水位で掘削(幅30~40m程度)

音更側

【相生中島上流左岸】

合意事項

- 左岸側(音更側)の河岸を、樹木の連続性に配慮しつつ平水水位で掘削。
- 樹林の分断される箇所では、連続性を確保するため樹林再生の試行的な取り組みを実施する。

【施工直後】 → 【施工後約10年のイメージ】

H25

野生動物の移動に影響し樹林の連続性を確保

土手を削り、樹木を植える

掘削部

音更側

【相生中島より下流】

合意事項

- 中洲については、樹林化している部分(中洲の半分程度)を平水水位で掘削し、河原環境の形成により再樹林化を防止する。
- 右岸側にシウドウツバメの集団営巣地があるため、左岸側を平水水位で掘削する。

左岸と中洲を平水水位で掘削

河原環境化

左岸を平水水位で掘削

H24

【音更川合流点より下流②】

合意事項

- 中洲を、左岸側半分程度を残して平水水位で掘削。枝流は保全する。
- 併せて、河原環境の形成を図るとともに再樹林化を抑制する。

枝流を保全

H25-27

右岸を平水水位で掘削

中洲を平水水位で掘削

【相生中島上流右岸】

合意事項

- 右岸の河岸側の樹林を幅50mで保全し、その背後地の樹林を伐採。
- 再樹林化を防止するために、掘削して湿地環境を形成する。

河原側を50m幅で保全

樹木伐採

樹木の連続性を確保

掘削部

音更側

湿地環境とし再樹林化を防止

音更側を掘削

H25-26

【メン川合流点下流】

合意事項

- メン川と十勝川の合流部は、サケ稚魚の速やかな降下を考慮し、平水水位で掘削するとともに、メン川沿いの樹木は保全する。
- 平均年最大水位程度で右岸高水敷を掘削するとともに、再樹林化を防止するため、地域との調整を図った上で、凹凸を付けて多様な湿地を含む環境をつくる
- 施工中の十勝川温泉側からの景観を考慮し、中洲の樹林の一部を10m程度の幅で残しながら施工する。

川原河原林は全て保全(防樹幅約10m)幅で保全

平均年最大水位程度で掘削し、草原環境を創出

十勝エコロジーパーク

河床掘削

掘削部

音更側

【途別川合流点下流】

合意事項

- 河床部を掘削する。
- 右岸側の高水敷については、現況の水域が極力残されるよう、水域周辺の樹木の内、川側を全て保全、堤防側を幅10mで保全し、その他の部分を平均年最大水位程度で掘削し、草原環境を創出する。

川原河原林は全て保全(防樹幅約10m)幅で保全

平均年最大水位程度で掘削し、草原環境を創出

十勝エコロジーパーク

河床掘削

掘削部

音更側

草原環境とする

平水水位で掘削

掘削部

音更側

【十勝川温泉より下流】

合意事項

- 樹林を伐採後、掘削して浅場環境を形成する。
- 十勝エコロジーパーク下流の樹林の一部を疎林化する。

※具体的な実施については、今後、十勝エコロジーパークや北海道と調整

河原林伐採

平均年最大水位

浅場環境の形成

河床及び右岸高水敷掘削

掘削部

音更側

帯広側

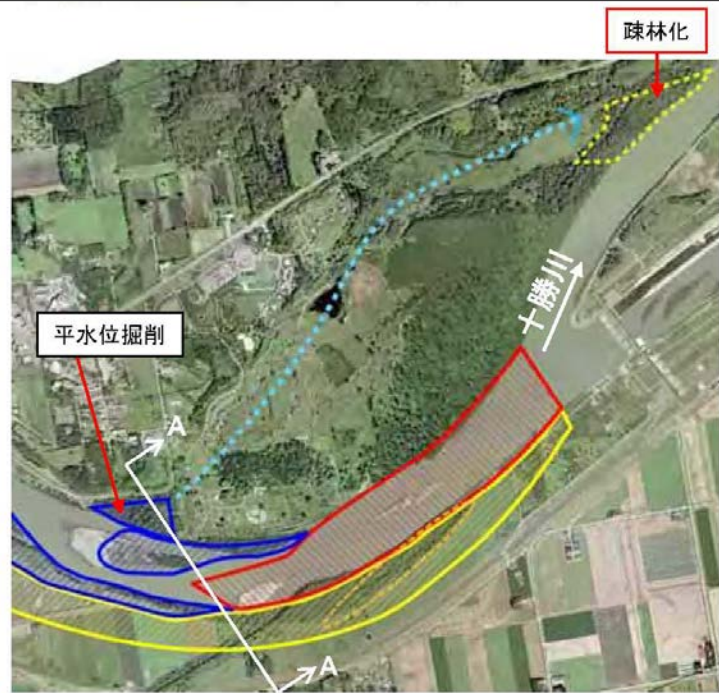
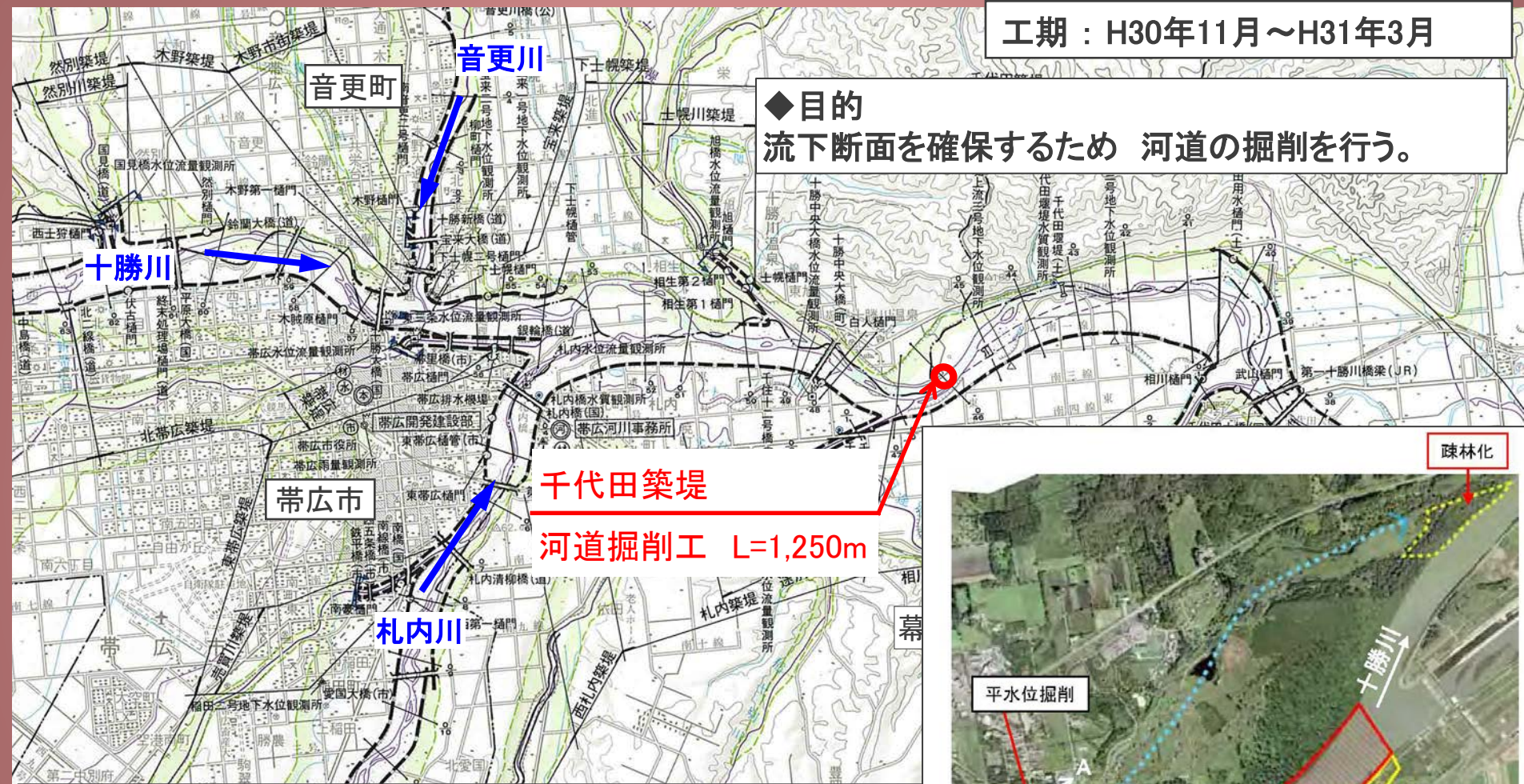
7

伐開区域凡例	掘削部凡例	4N
密→疎	河床掘削	
伐開	平水水位掘削	
	高水敷掘削	

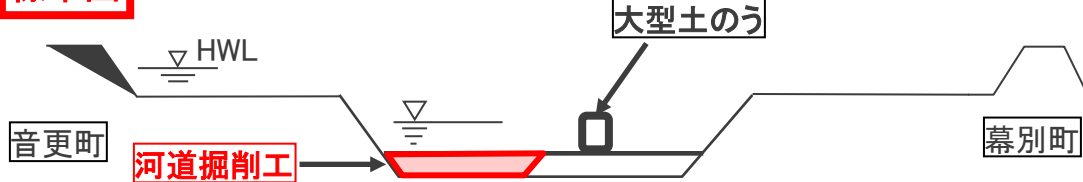
【H30実施】河道掘削工事

工期：H30年11月～H31年3月

◆目的
流下断面を確保するため 河道の掘削を行う。



標準図



【H30実施】河道掘削工事 施工状況



エコロジーパーク

十勝川

【H30実施】河道掘削工事 施工状況



北海道緊急治水対策プロジェクト ハード対策の概要 <主な河川の対策内容>

【十勝川水系】

十勝川水系の本川や支川において、災害復旧を行うとともに再度災害防止を図るため、堤防整備や河道掘削等を緊急的・集中的に実施。 **事業実施期間：H28～H31年度まで**



－ 川づくり(案)9つの論点箇所での現地見学会 －

平成30年9月12日、十勝川中流部市民協働会議のメンバーと、十勝川中流部川づくりワークショップ川づくり(案)における「9つの論点箇所」について現地見学会を行いました。



見学会の様子：「相生中島上流右岸」の湿地

引き続き、十勝川中流部市民協働会議の事務局会議の中で、維持管理のあり方について議論していきたいと考えています。

第11回いい川・いい川づくりワークショップin北海道十勝

平成30年12月1日～2日、全国から36団体が参加したワークショップにて、帯広開発建設部からは“洪水後に河川協力団体が果たす役割”と“流木のさまざまな利活用をめざして”について発表しました。



帯広開発建設部では、引き続き、地域の学生をはじめとした地域住民の方や、河川協力団体の方と“協働”で“いい川づくり”をすすめていきたいと思ひます。今後ともご協力をよろしくお願ひします。

